

令和7年度 第2回 総合教育会議録

○ 日 時：令和8年2月16日（月）13時30分～14時45分

○ 場 所：村民センター 小会議室

○ 出席者 村 長 藤城 栄文 行政係長 太田 祥二
教育長 尾形 浩 教育長職務代理者 田中 博美
教育委員 千 菊夫 増澤 智代 平野 真也
事務局 教育次長 藤澤 勇 学校教育係長 征矢 久仁子

以上9名

○ 傍聴人：なし

全体進行 藤澤教育次長

1 開会 教育長

○第2回総合教育会議では、今後5年間を見通した南箕輪村教育大綱（案）と南箕輪村小中学校教職員の業務量管理・健康確保措置実施計画（案）について協議をお願いしたいと思います。教育大綱は、平成27年に制定以来、手をつけてこなかったため、今回第6次総合計画が策定された時期にぜひ制定していただきたいと思い、提案致します。よろしくお願いいたします。

2 藤城村長 挨拶

○総合教育会議に関係者の皆様お集まりいただき、ありがとうございます。首長と教育委員会が協議調整を行い、村の教育施策の方向性を共有する場です。本日教育委員会からは、南箕輪村教育大綱（案）と南箕輪村小中学校教職員の業務量管理・健康確保措置実施計画（案）のテーマをいただいております。第6次総合計画に合わせて策定できればと思います。

活発なお考えをいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

3 協議 進行 太田行政係長

（1）南箕輪村教育大綱（案）

※会議資料<1>にて教育長より説明

- ・基本方針、学校教育の重点と施策、社会教育の重点と施策、施設整備について
めざす子どもの姿と小中学校の教育目標との関連について

行政係長

○ご質問、ご意見等ありますでしょうか。

村長

○めざす子どもの姿の中の、柔軟な思考力とはどんなことか。その中身は。

教育長

○柔軟な思考力とは、1つの考え方や視点に固執せず、状況や相手に応じて多角的に物事を捉え、

新しいアイデアや解決策を生み出せる能力です。固定観念にとらわれず、多様な選択肢を考えたり、他者の意見を柔軟に取り入れたりすることで、変化に強く、創造的な対応が可能になると定義されています。現代社会は変化が激しく、予期せぬ問題や多様な意見に直面します。そんな中で、柔軟な思考力は、イノベーションを生み出し、困難を乗り越え、円滑な人間関係を築くために不可欠なスキルとされていますので、大事にしたいと考えました。文科省の「学ぶ力」には、思考力・判断力・表現力とありますが、思考力が大事と考えここにしぼりました。また、論理的な思考力・実践的な思考力という言葉もありましたが、変化の激しい時代に対応していくには、小学校1年生から中学校3年生まで、その発達段階において、少しずつ身に付けていくことが必要であると思い、位置づけました。

田中職務代理者

○定例教育委員会でも12月、1月と2回にわたって審議し、先日は社会教育委員とも協議し、かなりわかりやすくまとめられてきたと思う。教育長の熱い思いがこめられている。

増澤委員

○社会教育の中の、図書館活動、読書をぜひ大事にしてもらいたい。学校図書では、図書委員が選書会に参加して、自分たちで図書館に入れる本を選書する活動が計画されていると聞いている。そういった読書に親しむ機会を大事にしてほしい。

○施設設備は、ここに掲載されているもののみなのか。

教育長

○読書については大事に考えている。新田次郎の「読むことは築くこと 考えることは創ること」をベースに、村民センターの図書館化も考えている。村民センターの中に、本に関する情報コーナー・短歌等の紹介、リサイクル本の設置等も考えている。読書は、一人の人間の背骨をつくる大事なものであり、その人の精神性を養うものと考えている。今、中学生の高校進学面接練習を教育相談員が行っているが、読書をしてきた生徒は、語彙力があり自分の考えを述べる力がある。また小作文への対応力も高い。こういう時代だからこそ、本を読むことの大切さを推奨していきたい。

村長

○教育大綱案の施設整備の内容は、令和8年度と9年度のもの承知している。

千 委員

○主な改修工事なので、最後の部分に、ひとマスあけて、等 と記せばよい。

平野委員

○学校教育の施策の2 働き方改革の推進で、いきなり日課表・週時程・年間計画の見直しとあるので、唐突感がある。ねらいは、明日の授業の準備・児童生徒へのきめ細やかな対応のために、その時間を生み出すことであるので、まずはそのことを記し、そのために、日課表・週

時程・年間計画の見直しを進めるとした方が、意図がわかるのではないか。

教育長

○その方向で修正します。

村長

○冒頭で質問した、「柔軟な思考力」をつけるのが難しいと思う。具体的には、どうやって身につけていくのか、そのあたりの考えを聞きたい。

教育長

○基本的には、各教科の毎時間の授業を通して、少しずつ身につけたいと思います。そのためには、先生が一方向的に教えるというスタイルの授業ではなく、共に学び合う課題解決型の授業を基盤にして、個人追究のあとの共同追究の場面で、いくつかのやり方を比べて、簡潔さ・的確さ・明瞭さの視点から、どれが一番わかりやすいか検討することを通して、柔軟な思考力を身につけていければと考えます。また、1つの解を導き出す際には、いくつかの方法やアイデアがあることを、学ぶことを通して、柔軟な思考力に触れることも期待できます。多角的な視点からの考察、新たなアイデアとの出会い、固定観念からの脱却といったことを各教科の学習、体験を通すことによって、柔軟な思考力は徐々に培われると考えます。

このことを、三校の校長会、三校の研究主任会、三校の教頭会を通じて情報共有し、指導主事の授業参観とアドバイスを通じて、先生方に伝えていきたいと思えます。

村長

○教育大綱案について、パブリックコメントを求めるのか。

教育長

○定例教育委員会、三校校長会、社会教育委員会等で意見を求めてきての本日の提案。総合教育会議で協議して、首長に策定していただければと考えています。

村長

○少なくとも、庁議への報告、議会全員協議会への報告をお願いしたい。その上で、4月からスタートということですね。

教育長

○2月末の庁議、3月の議会全員協議会でお伝えします。そのうえで、3月の後半、教育委員会だより「ああ 遠くの空は 晴れている」（毎週火曜日に「すぐる」で保育園・小中学校の全保護者と関係教職員約2,700件に配信）にて、全3回に分けて、文言の解説、施策の趣旨等Q&A方式で解説する形で、教育大綱を紹介していく計画です。

平野委員

○せっかく配信するのであれば、体裁等を含めてもう少し見やすいものにしたい。フォントや枠の統一等、見やすくしたい。

教育長

○見やすい形にします。

(2) 南箕輪村小中学校教職員の業務量管理・健康確保措置実施計画（案）

※会議資料<2>にて教育長より説明

- ・作成が求められた経緯、計画の趣旨、南箕輪村の現状、目標、計画の期間、実施する業務量管理・健康確保措置の内容、関連する取組、今後のフォローアップについて

行政係長

○ご質問等ありますでしょうか。

村長

○1か月の時間外在校時間の平均を30時間程度とするの30時間と設定している根拠は？

教育長

○国からの指示文書の表記がそうになっているためです。

村長

○令和6年度、南箕輪中 時間外在校時間の状況が月45時間を上回るが49.7%

であるが、1か月の時間外在校時間の平均が36.6時間となっている。これは、働き方が二極分化しているともとれる。グラフ等で、分布状況を示すとわかりやすい。

教育長

○確かに、平均値だけでは、わかりにくい部分がある。今までは、年に2回の報告であったが、来年度からは、p4 5の今後のフォローアップの2つ目の・にあるように、毎月、個々の教職員の在校時間を把握することで、各校の状況・課題を明確にしながら、アドバイスをしていく計画である。その取組は、毎年、定例教育委員会や総合教育会議で報告する計画である。上記の南箕輪中の例でいけば、45時間を上回るものが49.7%であるものの、大きく上回るものは少なく、また、45時間を下回る残り50.3%の教職員の在校時間数がかかなり少ないことが想定され、結果、平均は36.6時間となっている。その状況を把握するためにも、次回以降は、グラフ等も併せて表示し、実態を正確に把握した上で、改善策を打ち立てていきたい。

田中職務代理者

○PTA活動で学校現場を応援したいが、昨年の運動会では、それまでPTAでテントを前日立てていたのを業者委託した。その晩、強雨が吹き、PTAでやっていたら飛ばされていたかもしれない。PTAが協力するのは大事だが、PTA活動に対してはいろいろな考えの方もおられ、なかなか難しさもある。業務をスリム化し、負担を減らす取組みも行われている。先日の文科省の教職員の働き方改革のワークショップで紹介された「ボランティアHi」を南部小では早速導入したとお聞きした。既存の応援団や地域ボランティアだけに頼るのではなく、都合のつく方が、都合のつく時間帯に、都合のつく分だけ学校を応援するという取組も

大事にしていったらどうか。

平野委員

○2月12日の南箕輪中の働き方改革のワークショップを参観した。課題を解決する推しのポイントについて、「スピード感をもってまずやってみましょう」というコンセプトだったように思う。小グループに分かれてのワークショップを行うことが大事、その時間をつくるのが難しい現状なのかもしれない。いろいろ忙しいと聞くが、校内分掌を整理し、諸会合を精選して、明日の授業準備と今日の児童生徒へのきめ細やかな対応にあてる時間を生み出してほしい。

増澤委員

○小さいことであっても、やってみようという雰囲気づくりが大切である。そういう雰囲気があると、若手も意見がいいやすい。ワークショップ型の研修、自校の課題を自分たちで解決しようとするワークショップ、とてもよかった。

千 委員

○長時間勤務が常態化し、いつしか教職はブラック企業と陰で言われるようになってしまった。今回の業務改善のワークショップの意図はわかるが、先生方が楽をするためにという風に誤解しないようにしたい。あくまでも、子どもたちの教育活動のために、時間を生み出そうという根本を見失うことのないように気をつけたい。

村長

○p3 実施する業務量管理・健康確保措置の内容のところに、平野さんの言われた、各校の工夫改善への取組を具体的に書いていけばいいのではないか。

教育長

○文科省の「学校の教職員の働き方改革推進事業」に応募し、昨年12月から、管理職研修、小中各校の業務改善研修とワークショップを実施し、これまで計4回の研修を実施してきた。その中で、千委員が言われる部分は常に気をつけてきた。業務改善のねらいは、先生方が時間的・精神的ゆとりをもって、明日の授業の準備と今日の児童生徒の状況に的確に対応するための時間を放課後に確保し、子どもたちのためにその時間を使い、翌日の教育活動が有意義なものにすることである。ここは間違わないようにしたい。

行政係長

○学校の先生の仕事は、多岐にわたり、やってもやってもきりのない部分もある。だからこそ仕事とプライベートを切り分ける力も必要である。そのあたり、なかなか難しいのではないか。

教育長

○先日の研修でも、そのあたりが話題になった。時間ができたら〇〇をやるという発想ではなかなか〇〇にたどりつけない。むしろ、〇〇をやるために、こんな風に時間を使うという発想が大事である。仕事と生活を両立させていく考え方が求められている。

今回の業務改善の研修を通して、自分たちの学校の働く環境を、自分たちでよりよいものに改善していくプロセスの一端を皆で体験したことは貴重である。この体験を生かして、放課後に少しでも「創造的な余白の時間」を生み出し、授業準備ときめ細やかな生徒指導に時間を使

えるよう、教育委員会として、各校をサポートしていきたい。4年後に、1か月の時間外在校時間の平均が30時間という目標。高いハードルではあるが、教育委員会として本気になって実現していきたいと考えています。

行政係長

○よろしいでしょうか。それでは、村長からお話をお願いします。

村長

○4年前に、小学校へ体育専科を配置しました、ねらいは、体育専科の先生と学級担任がTT（チーム・ティーチング）を行うことで、体育の苦手な児童に丁寧な指導を行うことです。

この趣旨を、再度理解いただき、体育専科に任せきりということにならないよう、必ずTTでの指導をお願いします。（再度徹底をお願いします）

行政係長

○その他、何かありますでしょうか。

※特になし

5 閉会

教育長

○本日は、教育委員会として向こう5年間の施策の方向を示す教育大綱を協議いただき村長にお認めいただき策定する運びとなりました。庁議・議員全員協議会での報告を経て、周知を図ってまいりたいと思います。以上をもちまして、令和7年度第2回総合教育会議を閉じます。ありがとうございました。